

地元と関係機関が連携した水みちの連続性確保の取り組み

令和4年12月19日

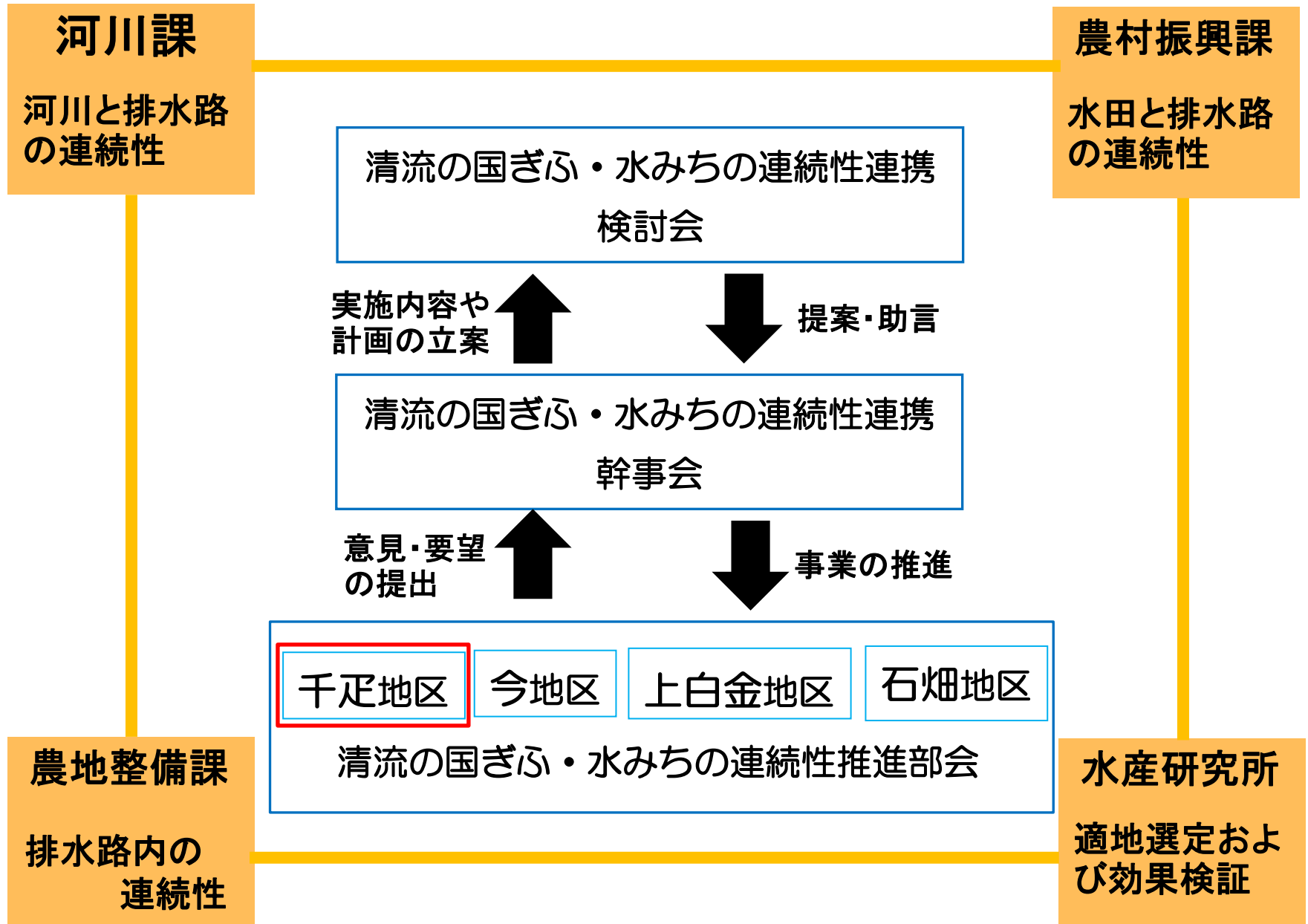
岐阜県 県土整備部河川課 後藤 寿志



生態系ネットワーク（水みち）の概念図

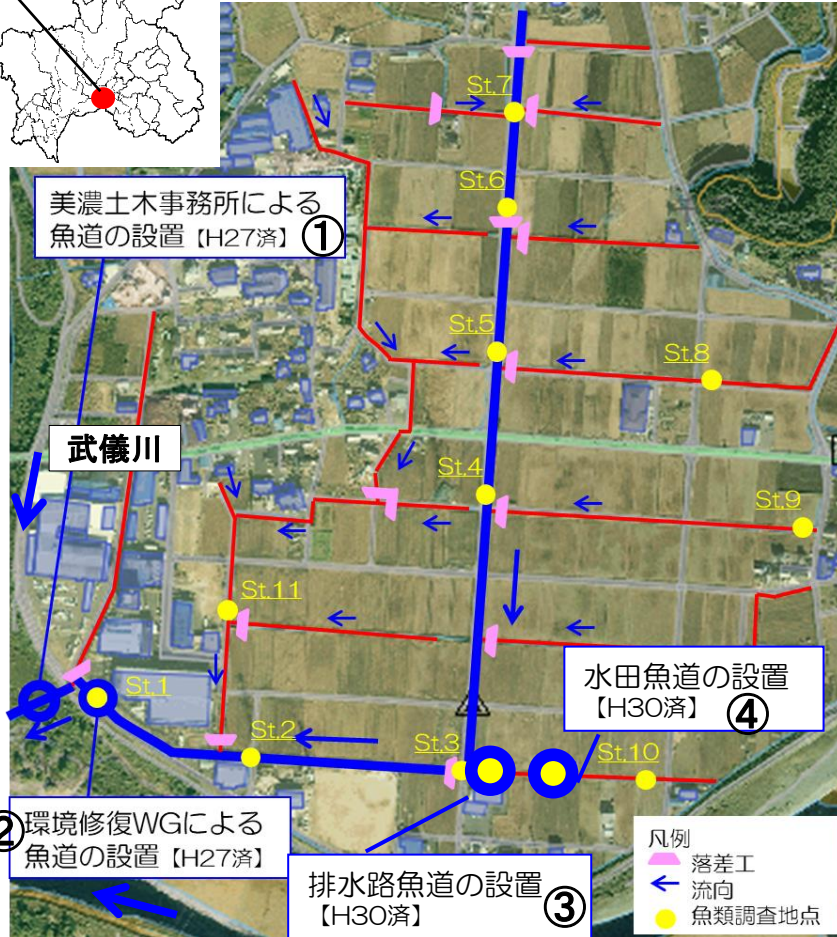


推進組織の構成



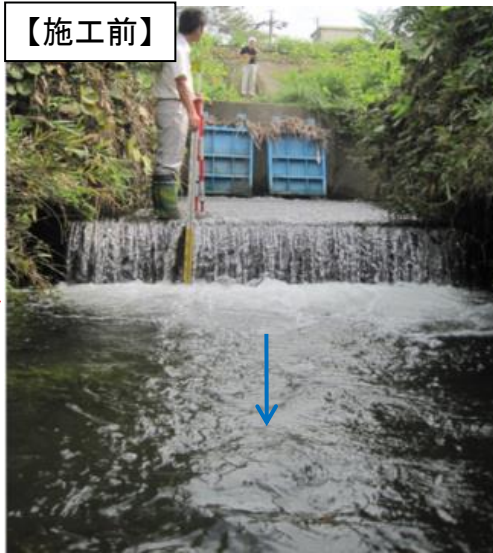
各地区の実施状況について（千疋地区）

岐阜県関市千疋地内



	水路区分	施工前 (m)	施工後 (m)
St.1	幹線水路	1.67 (0.85)	0
St.2	幹線水路	1.67 (0.85)	0
St.3	幹線水路	1.92 (1.10)	0.25 (0.25)
St.4	幹線水路	1.92 (1.10)	0.25 (0.25)
St.5	幹線水路	1.92 (1.10)	0.25 (0.25)
St.6	幹線水路	1.92 (1.10)	0.25 (0.25)
St.7	幹線水路	2.05 (1.22)	0.38 (0.37)
St.8	末端水路	2.10 (1.25)	0.43 (0.40)
St.9	末端水路	2.61 (1.72)	0.94 (0.87)
St.10	末端水路	2.67 (1.58)	1.00 (0.73)
St.11	末端水路	2.63 (1.81)	0.96 (0.96)

【①河川－排水路間の落差解消】



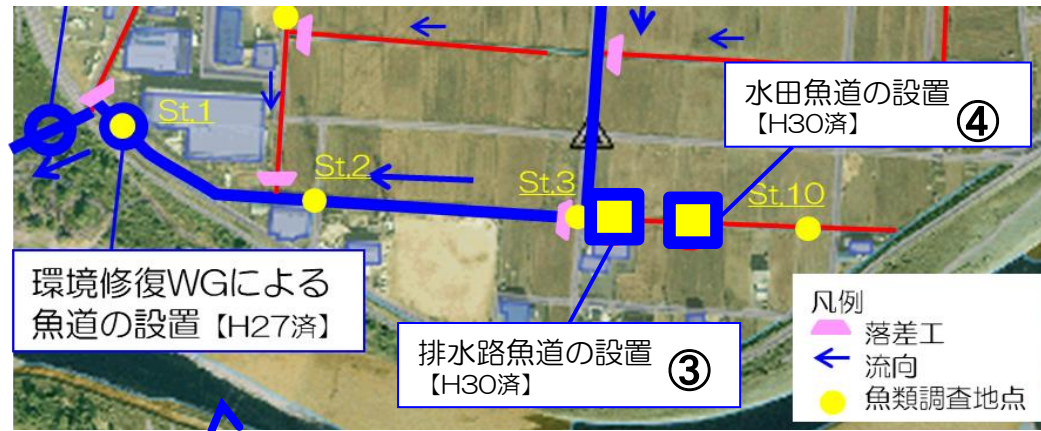
【②排水路内の落差解消】



※環境修復WGにて施工

※落差は落差上部底面から下部底面までの高さ
 ()内は落差上部底面から下部水面までの高さ

関市千足地区の実施状況について②



【③排水路内の落差解消】



【④水田魚道設置】



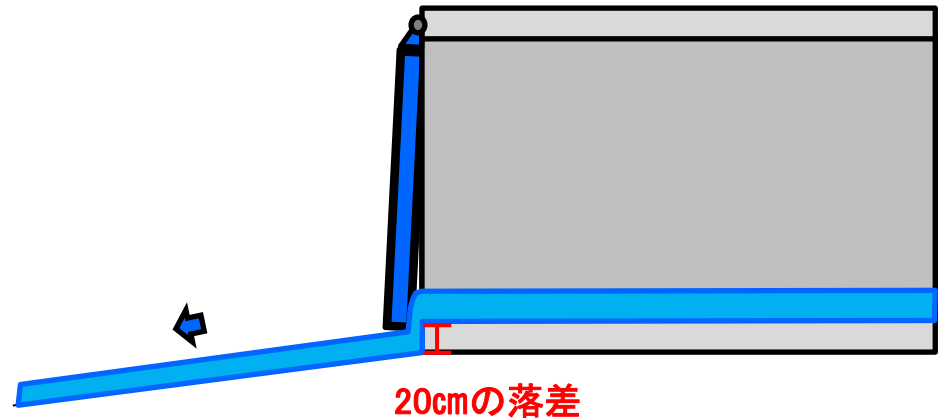
千足地区の課題と目標について

〈課題〉

河川への排水路口の樋門(フラップ式ゲート2基)に20cm程度の落差があり、水量が少ない時は、魚類等が遡上に苦慮している様子を確認したと報告あり。



○排水路口の樋門の落差の様子



〈目標〉

魚類が自由に移動できる経路の確保をするため、今回課題となった河川への排水路口における落差解消を目標とした。

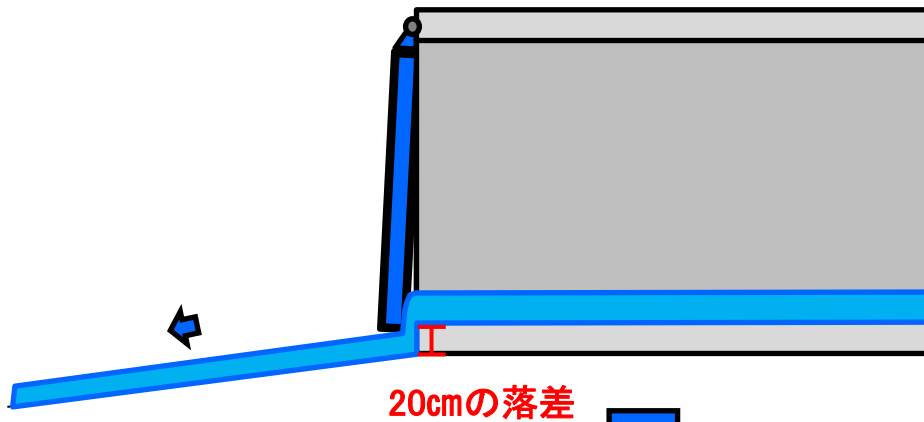
千疋地区の課題に対する取組みについて

〈課題に対する取組み〉

本来20cm程度の落差であれば、魚類等は遡上できると想定されるが、フラップゲートの開口部の狭さもあり、遡上しにくい状態であると想定される。

落差を少しでも減少させるため5cm程度水深の上がるプールの設置を行うこととした。

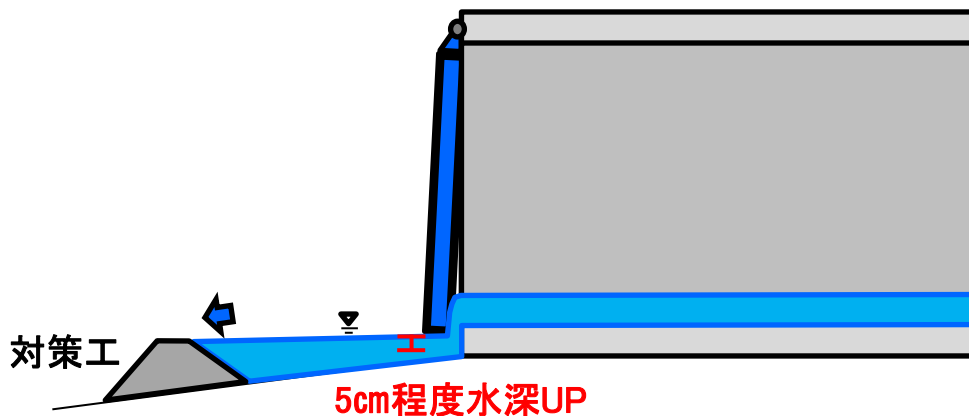
対策前



20cmの落差



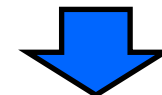
対策後



5cm程度水深UP



対策前



対策後

対策工

千足地区のモニタリング調査結果について

● 事前調査
(2014・2015)

● 事後調査
(2016-2022)



千足地区のモニタリング調査結果について

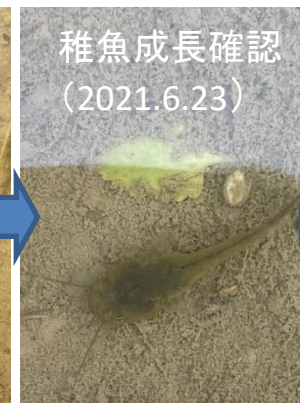
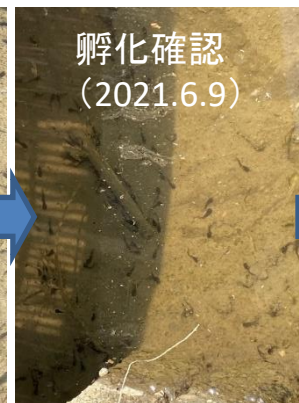
○水田魚道の調査



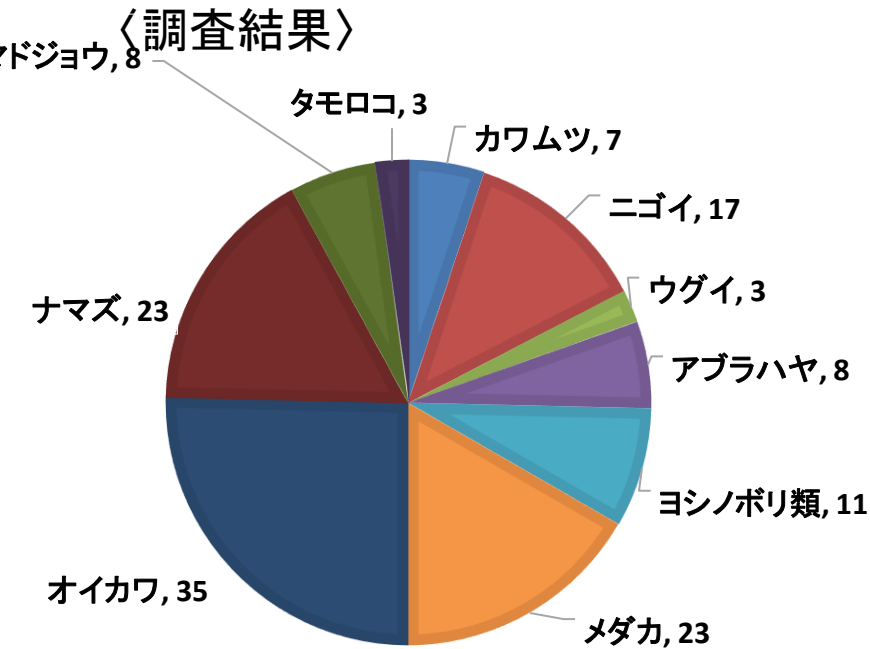
【水田魚道へ遡上を確認】



【ナマズの産卵、繁殖を確認】



千足地区のモニタリング調査結果と今後の対応



R4採捕結果グラフ



1. 魚類の種数は7種程度の増加

➤ 前(平均4種) → 後(平均11種)

2. 採集個体数は4倍程度に増加

➤ 前(平均採捕数44個体) → 後(平均採捕数186個体)

令和4年度モニタリング調査の結果

・ 種数 10種 ・ 採捕数 138個体

〈考察〉

令和4年度の調査結果を直上流部で比較

個体数: R3(9個体) → R4(10個体) 1個体増

種数 : R3(4種) → R4(3種) 1個体減

引き続きのモニタリングが必要

〈今後の対応〉

令和4年度に行ったモニタリング調査の結果を基に対策工のプール設置後の効果について、地元や関係機関と協議し検証していく。